

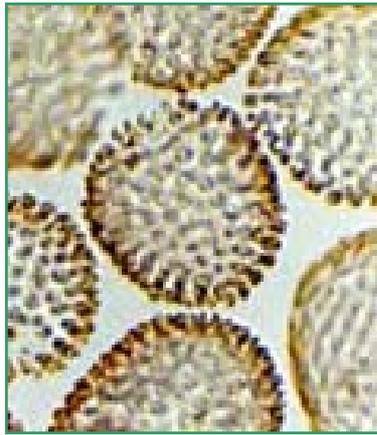
# 瀬田川プランクトン調査結果速報

～ 第4報 ～

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当  
平成14年4月22日

## 1. 最も数が多かった種類（優占種）

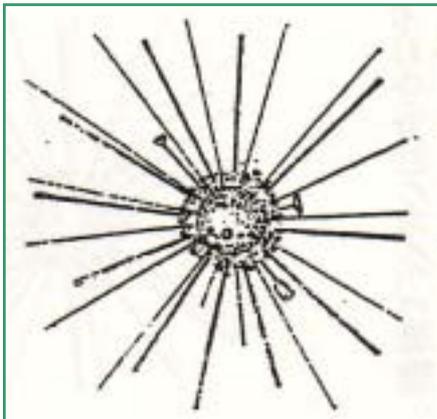
植物プランクトン第1優占種



*Uroglena americana*  
(ウログレナ)  
黄色鞭毛藻類

楕円形の細胞が球状の寒天質の表層に規則正しく配列し、球状の群体を形成する。各細胞は不等長の2本の鞭毛を有する。

動物プランクトン第1優占種



*Raphidocystis* sp.  
(ラフィドキスティス)  
太陽虫類

細胞は球形で多数の仮足が放射状に出ている。仮足の中心の軸系は細胞内の中心粒で終わっている。細胞は粘質物に覆われていて、粘質物の中に多数の骨片がある。

コメント

植物プランクトンは、淡水赤潮の原因となるウログレナが16群体/ml現れた。今回も全細菌数および無色鞭毛虫数を測定したところ、全細菌数は $8.4 \times 10^6$  cells/mlと前回に続き、南湖としては低く、無色鞭毛虫は $4.0 \times 10^2$  cells/mlと引き続き、南湖としては低い方であった。

## 2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
太陽虫類	<i>Raphidocystis</i> sp.	200

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
甲 殻 類	<i>Bosmina longirostris</i>	140

\* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

# 瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

平成14年4月22日

第4報

## (2) 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	5800		
(黄鞭) <i>Dinobryon bavaricum</i>	120		
(黄鞭) <i>Pseudokephyrion conicum</i>	10		
(黄鞭) <i>Ochromonas</i> sp.	10		
(珪) <i>Melosira granulata</i>	62		
(珪) <i>Melosira granulata</i> var. <i>angustissima</i>	11		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	130		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	24		
(珪) <i>Synedra acus</i>	6		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	20		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	80		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	20		
(緑) <i>Chlamydomonas</i> sp.	10		
(緑) <i>Koriella longiseta</i>	10		
(緑) <i>Mougeotia</i> sp.	15		
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	16		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	3		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	5940	93.6	65.4
(珪) 珪藻綱	253	4.0	6.2
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	100	1.6	5.0
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	54	0.9	23.5
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	6347	総体積	2.80E+06
種類数	17	( $\mu\text{m}^3$ )	

注1) 細胞数の単位は(細胞 / ml)

ただし\*印の種は群体数(群体 / ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種  
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から  
試験的に推定した概算値である。